四分銀
四分銀

国立公文書館
National Archives of Japan

朕明治二十八年十一月五日佛蘭西國巴里ニ於テ朕カ全權委員ト伯剌西爾合衆國全權委員ノ記名調印シタル修好通商航海條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御璽

明治三十年二月二十日

内閣總理大臣伯爵 松方正義

外務大臣伯爵 大隈重信

日本國皇帝陛下及伯剌西爾合衆國大統領閣下ハ両國間竝ニ其ノ臣民及人民間ノ友好通商ノ關係ヲ永久堅固ノ基礎ニ置クコトヲ欲シ修好通商航海條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ為ニ日本國皇帝陛下ハ在佛蘭西國特命全權公使従四位曽禰荒助ヲ伯剌西爾合衆國大統領閣下ハ在佛蘭西國特命全權公使「ドクトル、ガブリエール、ド、トレドヲ、ピザア、エ、アルメ并ダア」

ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

日本帝國ト伯剌西爾合衆國トノ間竝ニ兩國臣民及人民ノ間ニ永久堅固ノ和親アルヘシ

第二條

日本國皇帝陛下ハ適宜ニ其ノ外交官ヲ伯剌西爾合衆國ニ駐劄セシムルコトヲ得伯剌西爾合衆國政府モ亦適宜ニ其ノ外交官ヲ日本國ニ駐劄セシムルコトヲ得ヘシ又兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ領土内ニ於テ最惠國領事官ノ駐在ヲ許シタル各港各地ニ總領事、領事副領事若ハ代辨領事ヲ駐在セシムルノ權利ヲ有スヘシ但シ總領事、領事副領事若ハ代辨領事ハ其ノ職務ヲ執行スルニ先チ常式ニ從ヒ其ノ任國政府ノ認可ヲ經ヘシ其

ノ認可状ハ無報酬ノモノトス

兩締盟國ノ一方ノ外交官及領事官ハ本條約ノ規定ニ從ヒ他ノ一方ノ領土内ニ於テ最惠國ノ同格ノ外交官及領事官ニ現ニ許與シ或ハ將来許與セラルヘキ一切ノ權利、特典、特權及免除ヲ享有スヘシ

第三條

兩締盟國ノ領土及所屬地ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ自由アルヘシ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ領土及所屬地内ノ各地、諸港及諸河ニシテ最惠國臣民或ハ人民ノ到来ヲ許ス場所ヘハ其ノ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ且安全ニ到来スルノ權利ヲ有スヘシ又該臣民或ハ人民ハ最惠國臣民或ハ人民ノ在留居住ヲ許ス各地諸港ニ在留居住シ且其ノ地ニ於テ家屋倉庫ヲ借受ケ使用シ總テ正業ニ屬スル各種ノ生産物、製造品及商品ノ卸賣若ハ小賣營業ニ從事スルコトヲ得ヘシ

諸種ノ財産ヲ得有、使用及讓與スルコトニ関シ両締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ最惠國臣民或ハ人民ト同一ノ取扱ヲ享クヘシ

第四條

両締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ置ク主意ヲ有スルニ因リ通商航海旅行及居住ニ關スル一切ノ事項ニ関シ其ノ一方ヨリ別國ノ臣民或ハ人民ニ現ニ許與シ或ハ將来許與スヘキ一切ノ殊遇特典若ハ免除ハ他ノ一方ノ臣民或ハ人民ニモ若シ別國ヘ無報酬ニ許與シタルトキハ無報酬ニテ又若シ條件ヲ附シテ許與シタルトキハ其レト均一ノ條件ヲ附シテ之ヲ許與スヘキコトヲ両締盟國ニ於テ約定ス

第五條

伯剌西爾合衆國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ日本國ニ輸入シ又日本國ノ生産

或ハ製造ニ係ル物品ヲ伯剌西爾合衆國ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニシテ同様ノ目的ヲ以テ輸入スルモノニ對シ課スル所ノ税ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ税ヲ課セラルルコトナカルヘシ

両締盟國ノ一方ノ領土若ハ所屬地ヨリ他ノ一方ノ領土若ハ所屬地ヘ輸出スル一切ノ物品ヘハ別國ヘ輸出スル同種物品ニ對シ賦課シ若ハ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ税金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又両締盟國ノ一方ノ領土若ハ所屬地ヘ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ領土若ハ所屬地ノ生産若ハ製造ニ係ル物品ヲ輸入スルコトヲ禁止スルコトナカルヘシ」

又両締盟國ノ一方ノ領土若ハ所屬地ニ於テ別國ニ向ヒ同種ノ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ領土若ハ

所屬地ヘ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第六條

内地通関税、倉入、奬勵金、便益及税金拂戻等ノ事項ニ就テハ両締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ領土及所屬地ニ在リテ總テ最惠國ノ取扱ヲ享クヘシ

第七條

政府、官吏、公吏、一私人、會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テスルカ又ハ其ノ利益ノ為ニ課セラルル臺税、港税、水先案内料、検疫費其ノ他之ト同種ノ税金ハ其ノ性質如何ニ拘ハラス伯剌西爾合衆國ノ船舶ハ日本國諸港ニ於テ又日本國ノ船舶ハ伯剌西爾合衆國諸港ニ於テ同様ノ場合ニ同一ノ地ニ於テ現ニ最惠國船舶ニ賦課シ若ハ將来課スヘキモノニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノモノ課セラルルコトナカルヘシ

第八條

両締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規

所屬地ヘ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止
セサルヘシ

第六條

内地通関税、倉入奨勵金、便益及税金拂戻
等ノ事項ニ就テ両締盟國ノ一方ノ臣
民或ハ人民ハ他一方ノ領土及所屬地
ニ在リテ總テ最國ノ取扱ヲ享クヘシ

第七條

政府、官吏、公共社若ハ何等施設
ノ名義ヲ以ヘハ其ノ利益ノ為
ニ課セラルル所ノ噸税、燈臺税、港税、水先案内
料、検疫費、難船救助料其ノ他之ト同種ノ税金
ハ其ノ性質竝ニ名義ノ如何ニ拘ハラス伯剌西
爾合衆國ノ船舶ハ日本國諸港ニ於テ又日本
國ノ船舶ハ伯剌西爾合衆國諸港ニ於テ同様
ノ場合ニ同一ノ港ニ於テ現ニ最恵國船舶賦
課シ若ハ將来賦課スヘキモノニ異ナルカ或ハ之ヨ
リ多額ノモノヲ課セラルルコトナカルヘシ

第八條

両締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規

定スルノ限ニ在ラス各其ノ法律勅令及規則ニ従ヒ之ヲ規定スヘキモノトス

第九條

本條約ニ於テハ日本國ノ國法ニ従ヒ日本國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見認メ又伯剌西爾合衆國ノ國法ニ従ヒ伯剌西爾國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ伯剌西爾國船舶ト見認ムヘシ

第十條

日本國若ハ其ノ領海ニ到来スル伯剌西爾合衆國人民及船舶ハ其ノ日本國若ハ其ノ領海ニ在ル間ハ日本國法律及其ノ裁判管轄權ニ服従スヘシ又之ト均シク伯剌西爾合衆國若ハ其ノ領海ニ到来スル日本國臣民及船舶ハ伯剌西爾國法律及其ノ裁判管轄權ニ服従スヘシ

第十一條

両締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ相互ニ他ノ一方ノ領土及所屬地内ニ於テ其

ノ身體及財産ニ對シ完全ナル保護ヲ享受シ其ノ正當ナル權利ヲ執行シ及防護セムカ為メ自由ニ裁判所ニ訴出ルコトヲ得ヘク又訴裁判所ニ於テ内國臣民或ハ人民ト同樣ニ辯護人及代理人ヲ使用スルノ自由ヲ有スヘシ

訴臣民或ハ人民ハ良心ニ關シ完全ナル自由及現行法律、勅令及規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利竝ニ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ為メ設置保存セラルル所ノ適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ

第十二條

兵員宿泊ノ義務、陸海軍ノ強迫兵役、軍事上ノ賦斂若ハ強募公債ニ關シテハ両締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ領土及所屬地内ニ於テ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、免除及特權ヲ享有スヘシ

第十三條

本條約ハ批准交換後直ニ實施セラルヘシ而シテ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス

両締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ為シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第十四條

本條約ハ日本文、葡萄牙文及佛蘭西文各二通ニ調印スヘシ而シテ若シ日本文ト葡萄牙文ト齟齬スル所アリタル場合ニハ佛蘭西文ニ依テ之ヲ決スヘシ佛蘭西文ハ両國政府ニ於テ之ニ遵依スヘキモノトス

第十五條

本條約ハ両締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ可成速ニ巴里ニ於テ交換スヘ

シ

右證據トシテ雙方ノ全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治二十八年即チ西曆千八百九十五年十一月五日巴里ニ於テ六通ヲ作ル

曾禰荒助印

ガブリエール、トレドヲ、ピザア、エアルメ、ダア印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト伯剌西爾合衆國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治二十八年十一月五日巴里ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル修好通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閲覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百五十六年明治二十九年四月七日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣伯爵陸奥宗光印

国立公文書館
National Archives of Japan